

「情熱レッド」を身にまとい、 災害に強く安全・安心な まちづくりを目指す

岡山市消防局長 上田 匡



はじめに、本年元日に発生した令和6年能登半島地震によって、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、岡山市は県南部に位置し、温暖な瀬戸内海特有の風土により、年間を通じて雨や雪が少なく、日照時間が長いことから、「晴れの国おかやま」と呼ばれています。

また近年、現在の岡山中心市街地の原型となる「城下町」の基盤を作った、戦国武将の宇喜多直家と、その子で、最年少の豊臣五大老である初代岡山城主の宇喜多秀家が、岡山発展の礎を築いた親子として再評価される機運が高まっています。その中で、令和の大改修により、「烏城(うじょう)」の別名を象徴する漆黒の外壁に深みを取り戻した「岡山城」は、令和4年11月にリニューアルオープンし、日本三名園の一つ「後楽園」とともに、岡山市と県のシンボルとして、国内外からの観光客で賑わっています。

こうした歴史と文化のまち岡山市を守る当局は、現在、令和7年度の運用開始に向け、消防職団員の水災害対応力の強化と、救助隊員の潜水技術向上を図るための各種プールを備えた「水難救助訓練施設」と、市民に風水害の怖さを模擬体験していただく「風水害体験施設」の整備を合わせて進めています。また、令和8年度の岡山市役所本庁舎の新築移転に伴い、同庁舎に消防局本部と消防指令センターを移転整備する予定であり、新指令システムでは積極的にICTを取り入れるとともに、映像情報共有ツール等を導入して現場指揮や救急支援等への効果的活用を図り、安全・確実・迅速な消防活動を目指すこととしています。市役所本庁舎に危機管理室をはじめとする、市の防災関係部局が集約されることにより、災害発生時の情報共有・指揮命令機能の更なる強化が図られるとともに、地域の防災意識向上や災害への備えを促進し、市民の安全・安心を守るための総合的な防災拠点施設となることが期待されます。

実災害への対応としましては、各署への指揮隊の配置により、災害現場の指揮体制の確立と安全管理体制の強化を推進するとともに、大規模自然災害発生時において、消防職団員が一体的な活動を図るための活動基準確立と各種実践的訓練の実施など、常備と非常備消防の連携強化にも取り組んでまいります。また、年々増加する救急需要に対応するため、救急隊の増隊やマイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化、円滑化に向けた実証事業への参加も進めているところです。火災予防面では、VRによる火災疑似体験や市民に向けて作成した冊子「住宅火災における最適な避難のガイドライン」による、防火普及啓発を一層進めていきます。

結びに、当局は消防のテーマカラーであるとともに、情熱をイメージする「赤」を全面的に取り入れた防火衣を採用しており、消防職員採用ポスターにはキャッチコピーとして「情熱レッドを身にまといえ」を掲げています。今後も職員一同、何事にも一歩踏み出す勇気と情熱を携えて、災害に強く安全・安心なまちづくりを目指してまいります。

